



市内には豚ホルモンを提供する飲食店が多数立地



夢末市などの直売所で地産の豚肉を販売



2008年のB-1グランプリで栄冠に輝く



おいしい豚肉 ただきます

とん漬は、子どもから大人まで古くから厚木市民に親まれてきた名物料理

うれしそうに「とん漬」を頬張る子どもや、居酒屋でホルモンをつつきながら語り合う会社員たち。家庭や飲食店で振る舞われる豚肉料理が、明るく楽しい雰囲気を生み出します。

市内では、とん漬やホルモン焼きなどの豚肉を使った料理が広く親しまれています。メニューを扱う飲食店や小売業者、直売所が数多くあり、手軽に手に入られます。特に「厚木シロコロ・ホルモン」は、全国のご当地グルメの人気を競う「B-1グランプリ」で一躍有名になったメニュー。市内でのイベント開催のきっかけをつくるなど、まちの経済発展にも大きな影響を与えています。

豚肉が厚木に欠かせないものとなった背景には、古くから養豚が盛んな土地柄や、豚肉流通の拠点となる神奈川食肉センターの存在があります。今号では、市内の養豚と食肉処理の現場に密着。豚肉が私たちの元に届くまでの過程や、携わる人々の思いを紹介します。



9月には人気イベント「肉ホルモンフェス」が厚木で開催

目次	2・3面 愛情込めて育ててます	4面 命をいただく	5~9面 特集・あつぎの里地里山	10・11面 タウンガイド
	約5500頭を飼育する養豚場に密着し、厚木の豚のおいしさを広めようとする取り組み生産者の思いに迫りました。	1日2000頭以上の豚を食肉処理する神奈川食肉センター。処理工程を通して食べ物の大切さを考えます。	たくさんの恵みを与える里地里山。荒廃が進む今、貴重な環境を守る活動や市の取り組みを紹介します。	催し・講座・子育て・募集・お知らせなど、暮らしに役立つ便利な情報が満載。

こちらから

ブランド豚への挑戦

愛情込めて育てています

飯山にある有限会社白井農産は、創業54年目を迎える市内最大の養豚業者だ。厚木の豚のおいしさを広めようと、飼育から「とん漬け」などの商品製造、流通までを一貫して手掛けている。試行錯誤を繰り返してたどり着いたのは、ブランド豚の生産。その味は、たっぷり注がれた愛情の結晶だ。



肉ホルモンフェス開会式で

ひとまち 元気

厚木市長 小林 常良



日本の養豚は、江戸時代末期に始まった。次第に厚木市でも盛んになり、40年前には約300軒の養豚場があった。しかし、都市化の波の到来とともに住環境への影響が拡大。徐々にその姿は消え、現在は3軒が養豚業を営んでいる。その一つ、白井農産は2軒に及ぶ広大な敷地で約5500頭を飼育し、市内の出荷頭数の8割を占める。社長の白井欽一さん(52・飯山)は「冷めてもおいしい脂身の質には自信がある。癖がなく毎日食べてもらえるような豚肉づくりを目指している」と力を込める。

一定のサイクルを守る

養豚業を営むきっかけは、両親が知り合いから預かった数頭の豚だった。大切に世話した豚が交配と繁殖を繰り返すと、徐々に頭数が増えていった。「私が幼いころから、両親はこの仕事に生きがいを持って取り組んでいた。その姿を見ていたら、自然と後を継ぐ気持ち芽生えた」と白井さんは当時を振り返る。

高校生の時に父親が大病を患い、廃業の危機に直面したが、登校する前や休日に豚の飼育を手伝い家業を支え



母豚の乳を飲む子豚



生後5日目の子豚。体長は20センチ程

た。高校を卒業すると同時に本格的に養豚の道に入り、ノウハウを一から身に付けていった。

養豚の作業には、毎週一定のサイクルがある。月曜から火曜は交配。木曜から土曜にかけて、妊娠していた母豚が出産する。水曜は子豚を母豚から離す離乳作業に当たる。母豚から一度に生まれる子豚は、平均して12頭。母豚は一生のうち約8回出産し、およそ100頭の子豚を生む。子豚は、生後25日くらいまでは母乳で育つが、それ以降は離乳し育成豚舎に移る。生後わずか180日後には体重が100kgを超え、出荷できるまでの大きさに成長する。白井さんは「一番気を配っているのは豚の健康管理。毎日欠かさず確認している」と細心の注意を払っている。



ワクチンを注射後、育成豚舎に移される

厚木の豚をブランド豚に

作業現場で豚にじかに接しながら養豚業を学んだ白井さん。父親が65歳になったことを機に社長に就任した。厚木の豚肉をもっと価値あるものとして認めてもらうため、すぐにブランド化する戦略の実現に動き出した。

一般的に豚肉は、臭みが少なく脂身が白い方がおいしいといわれる。白井さんはまず、餌の改良に取り掛かり、既成品ではなく、麦やお茶、そば粉な

9月18日から27日までの10日間、民間による全国的な食イベント「肉ホルモンフェスAT-SUGER」が厚木中央公園で開催されました。都内を中心に催されている「肉フェス」は、多くのメディアで取り上げられる人気イベントです。今大会が厚木で開かれたのは、「シロココロ」がビーグランプリを制して全国的に有名になったことが大きく影響しています。

市内には神奈川食肉センターがあり、良質な肉を新鮮なまま提供しています。「とん漬け」やウインナーなどは名産として人気で、多くの人に愛されています。もちろん私もファンの一入です。

2008年のビーグランプリでシロココロがゴールドグランプリに輝いた時、すぐに厚木大会の誘致を決めました。そして多くのボランティアの皆さんの協力で、素晴らしい大会を成功させることができました。肉フェスが開催されたのも、多くの皆さんと積み重ねた歩みのたまものです。市民の皆さんが厚木の食を愛し、ふるさとに誇りを持つよう、これからも食を通じてたまちづくりを進めていきます。



あつぎ 元気Wave
CATV 11/16~放送
養豚の現場に潜入

豚に精一杯の愛情を持って接する白井さん



豚の鳴き声が響く豚舎。餌は自動的に供給される

地域への恩返し
白井さんは、市内の店舗への提供に加え、多くの市民に自社の豚肉のおい



豚舎から神奈川食肉センターへトラックで出荷

「ここで養豚場が運営できているのも地域の方々の理解があるから」と白

しさを実感してもらうことを大切にしている。生産者が、生産から加工や販売までを一貫して手掛ける6次産業化を推進。厚木を代表するグルメである「とん漬け」や「シロコロ」はもちろん、自家製のたれに絡めた豚肉やコロツケ、ギョーザなどさまざまな商品を市内の直売所で販売している。さらに、市内の保育所に一頭分の豚肉を寄贈したり、学校給食に使ってもらえるよう計画したりと厚木の子どもたちに「厚木の豚を食べて育った」と思ってもらえる取り組みに力を注いでいる。



とん漬けを作るスミ子さん

「厚木は神奈川食肉センターがあるなど、昔から豚との関わりが深いまち。市民も豚の特産品やご当地グルメに誇りを持っている。そんな土地で養豚を営めるのは恵まれているし、うれしい」と白井さんは喜びを口にしている。しかし、養豚業には近隣に及ぼす環境の問題や人材不足、海外からの安い豚肉の流入など課題が付きまとう。それでも「白井さんのところの豚肉は本当においしい」「子どもたちもこの豚肉だけは喜んで食べます」など、地域の消費者からもらう言葉が養豚に懸ける思いの原動力になっている。

「ここにいる豚は食べられる運命にある。だからこそ、必ずおいしい豚にするために、ありったけの愛情を込めている」と、白井さんは豚に優しいまなざしを注ぎながらも力強く語る。手塩にかけた厚木育ちの豚が、今日もまた、出荷されていく。

そのおいしさは愛情の結晶

井さんは、周辺住民への感謝の気持ちも忘れない。近隣に迷惑を掛けないようにするため、毎日大量に出るふん尿の処理にはとりわけ心を砕く。臭いを少しでも抑えるために、餌を改良したり、臭いを緩和する装置を豚舎に設置したりしている。



上落合にある直売所

いっばい食べて交流しよう
いい日この日
おいしいお肉やラグビー体験などが楽しめます。
《日時》11月29日、10時～15時
《場所》厚木公園
《内容》飲食店の出店、ラグビー体験、食育・漢方講座、セルフマッサージ体験など
《費用》飲食のみチケット1枚100円（体験などは無料）
TAG US・鈴木 ☎090-6154-7108

分娩担当 ◆ 紺野香織さん (29)
私の主な担当は、母豚が無事に産出できるよう介助することです。出産予定日の1週間前には、出産場所の清掃や消毒をし、わらを敷いて産に備えます。
母豚は妊娠期間中、気性が荒くなり、わらをかんだり柵に体をぶついたりします。気持ちを落ち着かせるため、しっかりとコミュニケーションを取ります。出産後は、体力が落ちて病気にかからないよう健康管理に気を付けます。出産に立ち会った子豚が大きくなって出荷される時は、毎回寂しくなりますが、おいしいと言ってもらえることが、やりがいにつながります。

生産担当 ◆ 加賀広道さん (33)
豚肉生産のスタートラインとなる、交配を担当しています。一年を通じて安定して豚肉を出荷するためにも、交配に失敗は許されません。しかし、豚は暑さに弱いので、夏場は繁殖力が低下します。夏場にいかにか安定して交配をさせるか、毎年苦労しています。
交配は新たな品種を生み出す可能性もあります。3種類の豚を掛け合わせて、肉質と脂身が優れた豚が開発されたこともあります。
これからも豚の新しい可能性にチャレンジして、よりおいしい肉を消費者の皆さんに提供していきたいです。

命をいただく

スーパーでは加工された食品が簡単に手に入り、レストランではおいしい料理がすぐに味わえる。そんな現代を生きる私たちは、食材のありがたさをつい忘れてしまいがちだ。ここでは、豚が食材へと姿を変える工程を通して、食べ物の大切さについて考える。

取材協力／神奈川食肉センター ☎227-0298



豚肉のロースにあたる部分の加工。余分な脂身をそぎ落とし、包装して出荷する



酒井にあるセンターは県内の食肉流通拠点



検査員が一头ずつ枝肉を評価



全国でも屈指の食肉処理量を誇る神奈川食肉センター。その敷地の片隅にある畜霊塔では、半年に1回、畜霊祭が執り行われる。食肉業の関係者たちが集まり、命をくれた豚と牛の魂を弔っている。長年、食肉処理に携わってきた業務部長の金子好一さん（62）は、しみじみと語った。「家畜は人に食べられるために生まれ、育てられる。食べる者は、そのことを心に刻んでおかなければならない」

全国一の豚肉処理場

豚は、イノシシが退化した生き物。おいしい食材にするため、人の手によって家畜として作り上げられた。センターでは、その豚を1日2000頭以上食肉として処理・加工している。酒井のどかな田園に囲まれた外観からは、その光景は想像できない。センターの創業は平成14年4月。平



筒状のまま洗浄する豚の大腸



センター内を案内する金子さん

塚市と相模原市にも公営の食肉処理場があったが、民営化の波に押され、3カ所を統廃合した株式会社神奈川食肉センターが厚木市に設立された。今では年間約53万頭の豚が運ばれ、全国で最も豚の食肉処理量が多い施設になった。現在、180人の従業員が、肉の解体や洗浄、加工など、多くの工程を丁寧に行っている。

家畜から食材に

養豚場から運ばれた豚は、いったんセンター内に係留される。トラックで移動してきた豚のストレスを解消し、汚れを取り除くためだ。係留所の柵が一つずつ開かれると、豚は導かれるように移動。解体ラインへと追い込み、一头ずつ絶命させる。

その後は順次、解体処理が進められる。豚の胴体は枝肉といわれる肉の塊に加工する。内臓は、腸などの白い部位と、肝臓などの赤い部位に分ける。大腸の処理工程には他の食肉処理場にはない特徴がある。通常は大腸を割いて洗浄するが、ここでは筒状のまま洗い、表裏をひっくり返して出荷する。私たちが街で食べる「シロコロ」特有の形状は、この工程から生まれている。こうした厚木のまちと豚との密接な関係に、この流通拠点の存在は欠かせない。センターから毎日のように新鮮な



住職がお経を読み家畜の霊を鎮める畜霊祭

学ぼう 食べ物のこと

食肉センターを見学しよう

センターでは、解体処理から肉の加工まで、一連の工程を見学することができます。社会見学や食育学習の場として訪問してみませんか。自治会や子ども会、学校や企業などのグループでお申し込みください。

☎日程調整の上、所定の用紙に必要事項を書き、直接またはファクスで神奈川食肉センター ☎227-0298・☎227-0210へ。

神奈川食肉センター 検索

食べ物に感謝する気持ちを

養豚場から出荷され、けたたましく鳴いていた豚を豚肉という商品にする。そこに命があったことを身に染みて感じている金子さんは、必要以上のものは食べないよう心掛けています。「食べ残しや、手付かずのまま捨てられている食材を見ると残念だ」と肩を落とす金子さん。「手塩にかけて豚を育ててきた農家が見たらがっかりするだろうし、命を犠牲にした家畜のことを思うとやりきれない」と嘆く。

金子さんは食事の際のあいさつを欠かさない。毎日の「いただきます」「ごちそうさま」は、三者に向けられている。「食事を作ってくれた人、家畜や野菜を育ててくれた人、そして、命をくれた生き物に対して」

今日もセンターではたくさんの豚が、食材へと加工されている。私たちは命をいただいて生きていることを、決して忘れてはならない。

特集
あつぎの
里地里山

郷土の美しい 風景を守る



黄金色の稲穂が道行く人の心を癒やす下荻野の散歩道に、手作りの水車が設置されました。作ったのは、農業が続けられなくなった農地を借り受けて、稲作に取り組む「荻野の美田を守る会」の皆さん。稲刈りを終えて水を止められてしまう田んぼに湧き水をくみ上げ、生物が生息できる水辺環境を残そうという試みです（8面で紹介）。

市は9月、同会のように里地里山の保全に向けて活動する6団体を認定（下参照）。補助金の交付などで支援していきます。特集では、里地里山の必要性や荒廃がもたらす危機を検証し、郷土の風景を守ろうと活動する人々を紹介します。

あつぎ 元気Wave
CATV 11/1~放送

里地里山活動認定団体（「荻野の美田を守る会」「里山ネット・あつぎ」は、8・9面で紹介）

園環境政策課 ☎225-2746

七沢里山づくりの会（玉川）

平成10年発足。耕作放棄地での稲作や炭作りなどに取り組む。平成14年から公募の市民と共に田植えや稲刈りを体験できる「里山マルチライブプラン」を開催。企業なども連携し体験学習を実施している。



荻野三つ沢の里山を守る会（荻野）

平成14年発足。荻野の耕作放棄地の棚田で、稲作を展開している。「里山マルチライブプラン」を実施しているほか、公募の市民や地域住民を対象に年に1~2回、ホテルの観賞会も開催している。



みどりと清流のふるさと創造委員会（小鮎）

平成16年発足。地域の観光事業の一翼を担おうと、庫裡橋付近の耕作放棄地でポピーやザルギクなどを栽培している。ことしは冬に向けて5000株のロウバイを植えた。「ポピーまつり」や「秋の花まつり」も開催している。



グリーン成長桜（荻野）

平成16年発足。鳶尾山全体の里山づくりを目指し、植樹祭や自然観察会の開催、下草刈りなどに取り組んでいる。鳶尾山に苗木を植えるほか、地域の子どもたちなどとハイキングコースの除草作業もしている。



市の取り組み

- 農業機械の導入に対する費用の一部補助
- 耕作放棄地を活用した稲作体験や、棚田の修復などをする「里山マルチライブプラン」の実施
- 遊休農地の未然防止や解消に向けた農地の貸借の推進
- 新たに農業を始める就農者の支援



里山マルチライブプランの田植え



耕作放棄地を活用し就農を支援



都市農業支援センター 宮森潤二センター長(42)

センターは、農業従事者の高齢化や後継者不足、遊休農地の発生など、農業が抱える課題の解消を目指して昨年4月に発足しました。農地の貸し手と借り手のマッチングや耕作放棄地の復元、新規就農者への支援、農地相談などに取り組んでいます。耕作放棄地の再生に向けては、荻野地区の農地1畝を除草・耕運し、津久井在来大豆と小麦の二毛作を始めました。耕作放棄地を減らしていくには、新たな担い手を見つけ、農業経営を続けられる仕組みづくりが欠かせません。国の交付金を活用し、就農から機械の調達、販売まで幅広くサポートしていきます。

危機3 耕作放棄地の増加



都市農業支援センターによる農地の再生と利用

里地の水田は、食糧生産の場であるほか、多様な生き物が生息する水辺であり、餌場でもあります。しかし、農業従事者の高齢化や後継者不足により、利用されなくなった農地が増えています。市内の農地約1400畝のうち、遊休農地は現在約52%。農地の有効利用と保全・再生、担い手の育成、荒廃の未然防止に向けた取り組みなどが急務となっています。



獣害防護柵の管理や検査は地域住民が実施

危機1 野生鳥獣の被害

市の取り組み

- 荻野・小鮎・玉川・森の里地区に全長25kmの獣害防護柵の設置、維持管理、補修
- シカとイノシシ1頭につき2万円の報奨金を交付する捕獲報奨金制度の実施、くくりわなの無償貸し出し
- サル追い払い
- サルの群れの位置情報を市ホームページで提供
- 有害鳥獣の捕獲

獣害防護柵の設置により、野生鳥獣による農作物への被害は近年減少しているものの、被害の根絶には至っていません。原因は、狩猟者の減少・高齢化や、アライグマをはじめとする野生化した外来生物の増加など。さらに、耕作放棄地と荒廃した里山林の増加が、シカやイノシシ、サルなどの野生動物が潜みやすい環境を与えています。個体数の適切な調整や侵入防止への取り組み、里地里山の適切な保全が求められています。



鳥獣被害から地域を守る



小鮎地区獣害対策 小鮎地区獣害対策協議会 松野正剛副会長(73・飯山)

野生鳥獣による被害が深刻化していた平成23年に、地域の農家など20人で協議会を立ち上げました。小鮎地区でもサルやシカなどによる獣害が猛威を振るい、農作物への被害だけでなく、獣が運んでくるヤマビル被害や獣と車の衝突などが発生し、とても手を焼いていました。そこで、獣害防護柵の里側にいるシカとイノシシを狙い、踏み入れた足を捕える金属製のわなを里山に仕掛けています。現在では年間60から70頭を捕獲し、鳥獣被害は大幅に減りました。

手塩にかけた農作物を荒らされる被害は深刻です。私たちの取り組みが、地域の皆さんの安心につながるとうれしいです。



わなを仕掛ける松野さん

危機4 生物多様性の喪失

里地里山の雑木林や草地、水田の水路、ため池などには、多様な生き物が生息してきました。しかし、昭和30年以降、管理が行き届かなくなり、水田地帯の淡水魚や草原のチョウなど、かつて身近に見られた動植物が減少しています。生物多様性は、長い年月をかけて人と自然が共生し、つくり上げてきたもの。国が指定する絶滅危惧種のうち半数近くが里地里山の地域に分布しています。



厚木植物会による植物の生育状況調査



実態調査で植物の現状を把握

厚木植物会は、植物の実態調査やデータベースの構築、「神奈川県植物誌」と会報誌の作成、自然観察会・講演会の開催などに取り組む市民団体です。平成9年に設立され、現在32人で活動しています。



厚木植物会 長岡健二会長(74・毛利台)

市内を歩き植物の標本を集めていると、強い繁殖力を持つ外来種が増え、在来種が失われつつあることを感じます。都市化の影響でやむを得ない側面もありますが、外来種の急激な増加は防がなければなりません。里地里山は動植物が最も豊かに生息できる場です。地域の皆さんや行政と協力しながら、私たちも厚木の美しい自然を次世代に残せるよう貢献していきたいと思っています。

市の取り組み

- 市内の外来生物の情報を提供するサイト「写マップあつぎ外来生物調査隊」の情報を基にした駆除活動
- 生き物の生息状況調査、厚木版レッドデータ(絶滅危惧種)の作成
- 多様な動植物が生息できる空間「ピオトープ」の公共施設への設置
- 希少野生生物の観測調査



住民や学生と連携した外来植物の駆除



危機から再生へ

命育む里地里山

広がる田園、潤いをもたらす水辺、背後にそびえる雄大な山々、そこに生きる多様な生き物——。里地里山は、遠い昔から人々の営みに寄り添い、食糧や安らぎなど、私たちにたくさんの恵みを与えてくれました。しかし、その自然は人の手で管理されなければ環境を維持できない人工的なもの。人の手が行き届かなくなっている近年、荒廃が止まりません。

ここでは、現在の里地里山を取り巻く課題を検証。市民団体の活動や市の取り組みを紹介し、命を育む掛け替えのない環境を守るために必要なことを考えます。

図環境政策課 ☎225-2746

里地里山の恵み



里地里山とは、人々が生活をしている集落である「里」と、田んぼや畑などの「農地」、雑木林や竹林などの「山」が入り混じり一体となった地域のこと。人々は日々の生活の中で手を入れ、関わりを持ち続けることで、長い年月をかけて里地里山を形づくってきました。

- 1 山菜やキノコ、果実、肥料などの宝庫
- 2 絶滅の恐れのある動植物など、多様な生物を育む
- 3 まきや炭などの燃料資源、建築材の供給源
- 4 潤いや安らぎのある景観、伝統的生活文化の維持
- 5 環境教育や自然体験活動の場
- 6 高い保水力で土砂流出や洪水を抑制
- 7 大気や水の浄化、地球温暖化の防止

自然環境保全センター



「自然環境の保全と再生」をキーワードに、剥製やパネルの展示、自然観察の場の提供、催しなどを通じて、人と自然の関わりを考える施設です。

- 丹沢大山や里山を解説する展示、ジオラマ、図書室
 - 里山の自然を楽しむ自然観察園と樹木観察園
 - けがや病気をした野生動物を保護する鳥獣保護棟(ミニ観察会)
- 毎週日曜と祝日、13時～15時。無料。☎当日直接会場へ。
図自然環境保全センター(七沢657) ☎248-6682

市の取り組み

- コカ・コーラ・イーストジャパン株式会社、森林組合と締結した「元気な森づくりに関する協定」に基づく、森林づくり体験教室の実施
- 森林組合と連携して実施する、荒廃した森林の間伐、枝打ち
- 林業の再生に向け、公共施設整備に厚木産木材を活用
- 林業の人材確保に向けた研修・体験機会の提供



森林づくり体験教室の間伐体験



楽しみながら里山を整備

私たちは平成17年の設立以来、県立七沢森林公園内と南沢林道で下草刈りや間伐、散策路の階段補修などの森林づくりに取り組んでいます。林業経験者から山好きの人まで会員40人が月に1度、楽しみながら活動に当たっています。活動が実を結び、園内に「森の小道」を切り開くこともできました。



厚木市森林づくりボランティア協会 宮里信輝会長(65・棚沢)

厚木には豊かな里山があります。しかし、美しい里山を守るには、人が手を入れ続けなければなりません。山歩きや自然が大好きな私にとって、里山林の再生に役立てる活動には大きなやりがいを感じています。これからも仲間とチームワーク良く取り組んでいきたいと思っています。

危機2 里山林の荒廃

里山林はかつて、まきや建築材など暮らしに欠かせない資源の生産の場でした。しかし、燃料が石油などに変わり、まき・木炭の需要や林業従事者が減少して以降放置され荒廃が進んでいます。管理が放棄された里山林には十分に日が当たらず、木や植物がしっかりと根を張れずに保水力が低下。土砂災害などの危険につながります。間伐や下草刈りなどが必要とされています。



森林づくりボランティア協会のメンバーによる間伐作業

(仮称)健康こどもの森 名称の投票を受け付け

市では、平成28年3月12日のオープンに向け、自然体験活動の新たな拠点となる施設を荻野運動公園の北側に整備しています。子どもたちが自然と触れ合いながら遊び、学ぶことができるこの施設にふさわしい、素敵な名称1点をご投票ください。

- 1 あつぎこどもの森公園
- 2 厚木たからの森公園
- 3 あつぎわんぱくの森公園
- 4 おぎの里山公園
- 5 おぎの自然の森
- 6 おぎの体験の森公園
- 7 自然子供ふれあいの森

《資格》市内在住・在勤・在学の方(小学生以上)の方(1人1回)
《期間》11月30日(必着)
《方法》①投票用紙(市ホームページからダウンロード可)に必要事項を記入し、公民館などにある投票箱へ投函するか、直接または郵送、ファクス、Eメールで〒243-8511公園緑地課 ☎225-2412・☎225-3027・e-mail=4800@city.atsugi.kanagawa.jpへ②市ホームページ投票フォームから投票。



動植物などを観察できる空中回廊

自然と共に生きる



市内には、美しい里地里山の景観を守ろうと、志を同じくする仲間と活動を展開する人々があります。このページでは、ふるさとやそこに住む人の未来のため、里地里山が抱える課題に向き合いながら、自然と共に生きる人々の思いに迫ります。

環境政策課 ☎225-2746



地域の子もたちも参加した稲刈り。立派に実った無農薬米に大満足



餌をやる奥田ことねちゃん(4)も立派な会員の一人

カモたちの活躍

会員は月に2回程度集まり、

75歳で農業初挑戦

代表を務める熊澤光政さん

アイガモ農法で米も人も元気に

荻野の美田を守る会

美しい田園風景を

10月3日。待望の初収穫の日がやって来ました。メンバーは、ぬかるむ田んぼに足を取られながらもザクザクと稲を刈り取り

ました。熊澤さんは稲の束を抱え「豊作の音がする」と満足そうな笑みを浮かべていました。稲の成長を目にしてきた人からは「自分の土地でもやってほしい」という声も寄せられています。会員も徐々に増え、現在は10人になりました。熊澤さんは「定年を迎えた人の生きがいにもつながるし、多くの人と一緒に美しい風景を守っていきたい」と意気込みます。

水の供給が止まった田んぼには、手作りの水車が湧き水をくみ上げます。ここではメダカや微生物などが繁殖し、土壌を肥やしてくれるはず。「餌を求めて水鳥がやって来るような、美しい田んぼにしたいんだ」と熊澤さんは目を輝かせます。

美田再生への取り組みはまだ始まったばかり。熊澤さんたちの挑戦は、カモをお供に続いていきます。



多様な生物が住む田んぼにするため、水車を作る熊澤さんたち



初めての収穫に精を出す熊澤さん。収穫前から8件もの予約が入った



カボスや木工クラフトが並ぶ日曜日



山に日が当たるよう大学生と竹を除伐



七沢に広がるカボス畑。実りの秋は収穫に追われる（前列左が井一さん）

澄んだ空気に秋を感じる10月のある日、七沢のハイキングコース沿いにあるカボス畑で、「里山ネット・あつぎ」の皆さんが草刈りと収穫に汗を流していました。メンバーは、七沢・森の里在住の方を中心に47人。地域に遊休農地が増える中、「地元の田園風景を守りたい」と平成23年に結成されました。

県内最大のカボス畑に

厚木の食ブランド「OECフー
ド」に認定されているゼリーや、
地元の酒造会社を作るビール・
焼酎に使用されるなど、厚木の特
産品として用途を広げる七沢の
カボス。「黄色く熟したカボスは
酸味がまるやかですごくおしい
んだ」。そう自信たっぷりに話
すのは、代表の井一信義さん
（81・七沢）です。

会では当初、山から降りてく
るサルやイノシシなどの被害を
防ぐために、遊休農地を活用し
て枝に鋭いとげを持つカボスの
栽培を始めました。収穫すると
「七沢日曜なんでも市」や「森の
まつり」で販売。「爽やかな酸味
でおいしい」と徐々に知られる
ようになりました。

「育てる一方で、出荷先を見つ



七沢産のカボスで地域活性化

「育てる一方で、出荷先を見つ
けるのが大変だった」と話す井
一さん。カボスの木は年々大き
く育ち、50坪の畑で約2トもの
実を付けるようになりました。
緑色で売られるのが一般的なカ
ボスですが、一部はもぎきれず
に黄色く熟していききました。

「黄熟カボス」が大好評

優しい味になった黄色いカボ
スは、思いがけず評判を呼びま
した。都心などの市場に近いた
め、完熟になるまで木に実らせ
てから出荷できるのも、大きな
メリットでした。「黄熟カボスを
ブランドにして七沢をPRしよ
う」。メンバーの期待は膨らみ、
それに応えるよう、昨年は都内
の老舗ホテルから大量注文が入
るなどの大成功を収めました。



稲作を体験する市内企業の家族たち



地元の酒造会社とサツマイモを収穫

まずは自然に触れ合って

神奈川県自然保護協会
副理事長
あおと 航次さん (72・林)

里地里山では、四季の移り変わりとともに美しい花が咲き、虫が鳴くなど、さまざまな動植物の営みが人々の生活に彩りを与えてくれます。人の手が入らなくなり荒廃が進んだ結果、生物多様性や自然の風景などが失われ、さらに、シカやイノシシなどの動物も人里に出てくるようになりました。このような危機に直面し、里地里山の価値や必要性が見直されてきましたが、いまだに荒れているところの方が多いといわれています。守っていくには、一部の人たちの努力だけでなく、市民ボランティアなどみんなで取り組むことが必要です。自然が身近にあることで私たちの生活が成り立っていること、手を入れることによって維持される自然があることを理解して、まずは自然と触れ合うことから始めていただきたいです。

魅力ある七沢に

「七沢には、温泉も大きい山もクライミングができる岩もある。恵まれた土地だから、もっと生き生きとした場所にできるはずなんだ」と話す井一さん。長年暮らしてきた土地の発展を願って止みません。「会員はみんな、子どもころに自然の中で遊んだ経験を残していきたいと思っている。荒れた土地が増えて、この景色が無くなったら寂しいからね」

会ではカボスに留まらず、豊かな農地を利用した米作りやサツマイモの栽培、里山を守る竹

林の除伐、草刈り、まき作りと週2日、精力的に活動していま
す。より多くの人に自然に触れ
てもらいたいと、市内にある企
業に稲作体験の場も提供してい
ます。「一度体験すれば、自然
の良さが分かるはず。市民や都
内の人が手ぶらで農業を体験し
に来て、汗をかいたら温泉に
入って帰れるようにしたい」と
メンバーの意欲は尽きません。

「地元愛」を原動力に、多くの
仲間と豊富なアイデアで自然
を守る井一さんたち。地域の可
能性を生かした取り組みが、里
地里山の再生を支えています。



山で徐伐した木や、地元の材木屋から譲り受けた端材を利用したまき作り

市内在住在勤在学の方30人。無料。
11月2～12日に救急救命課☎223-9365へ。抽選。☎141893 G5

なぜ？なぜ？食べる子ども、食べない子ども

11月25日、10時～12時。あつぎ市民交流プラザ。調理実習、試食と幼児期の食生活についての講義。
幼児(3～6歳)を持つ市内在住の保護者と保育に関わる方24人。無料。
託児あり。☎11月2日から健康づくり課☎225-2597へ。先着順。G5

こころの糸を響かせる「ストレッチと音楽療法の講演会」

12月1日、10時～12時。あつぎ市民交流プラザ。うつ病の理解と音楽療法の講座。市内在住の方70人。無料。託児あり。☎11月16日までに健康づくり課☎225-2201へ。抽選。☎152448 G5

こころのふれあいフェスタ陸合北

11月14日、13時～16時。陸合北公民館(三田2735-1)。心の病についての講演、体験発表。定員150人。無料。☎当日直接会場へ。☎ハートラインあゆみ☎259-5712。

11月は不法投棄撲滅強化月間

「不法投棄をしない!させない!ゆるさない!」をスローガンに、撲滅を目指しましょう。☎環境事業課☎225-2780。

ノロウイルス食中毒予防キャンペーン

11月18日、14時～15時30分(受け付けは13時30分～)。あつぎ市民交流プラザ。食中毒を予防する正しい手洗いを体験する。無料。☎当日直接会場へ。☎厚木地区食品衛生協会☎222-7643。

11月は児童虐待防止推進月間

虐待は、子どもの心と体に深い傷を残し、健やかな成長に重大な影響を与えます。虐待を防ぐには、早期の発見・対応が重要です。発見したときは迷わず通告しましょう。☎平日＝家庭相談課☎225-2244、県厚木児童相談所☎224-1111。土・日、祝日、夜間＝全国児童相談所

共通ダイヤル☎189。

11月は子ども・若者育成支援強調月間

「心のふれあいと夢をはぐくむ青少年～家庭・学校・地域の連携で～」をテーマに、青少年の健全育成に努めましょう。☎青少年課☎225-2580。

無料調停相談会

11月14日、10時～16時。あつぎ市民交流プラザ。借金や夫婦関係、相続などの相談に民事・家事調停委員が対応。市内在住在勤の方。無料。☎当日直接会場へ。☎厚木民事調停協会☎221-2018。

第7回議会報告会 議会と市民の意見交換会

11月21日①14時～15時30分。荻野公民館(中荻野594-1)②19時～20時30分。森の里公民館(森の里1-31-1)。平成26年度決算(9月定例会議)の審議概要の報告や意見交換など。定員①100人②60人。☎当日直接会場へ。☎議会総務課☎225-2701。

オストメイト社会生活訓練事業の相談会

11月15日、13時30分～16時30分。海老名市総合福祉会館(海老名市)。皮膚・排泄ケア認定看護師の講演、グループ懇談、個別相談、装具の展示。人工肛門・膀胱保有者とその家族や関係者など70人。無料。☎当日直接会場へ。☎日本オストミー協会神奈川支部☎0466-45-4216。

年末調整などに関する説明会

11月13日、13時30分～16時10分。文化会館。①年末調整や法定調書②給与支払報告書の作成など。事業所や事業主の方。無料。☎①厚木税務署☎221-3261②市民税課☎225-2011。

平成28年度から個人住民税(市・県民税)特別徴収完全実施

特別徴収は、事業主が従業員に支払う給与から個人住民税を差し引き、納入する制度です。県内の全市町村と県は、平成28年度から特別徴収の完全実施を目指しますので、事

あつぎ 元気Wave 11月の広報番組 ガイド
ケーブルテレビ あゆチャンネル(11ch)
放送時間(15分) ①12時～②19時30分～③22時45分～
番組はホームページ動画配信 あつぎ元気Wave 検索 CATV放送開始後に配信

業主の方は準備をお願いします。詳しくは市ホームページをご覧ください。☎市民税課☎225-2011。

都市計画変更案の縦覧と意見書を受け付け

森の里東地区の都市計画変更案を縦覧し、意見書を受け付けます。《期間》11月13～27日、8時30分～17時15分《縦覧場所》都市計画課《意見書提出》直接または郵送で〒243-8511都市計画課225-2401へ。

幼児2人同乗用自転車の購入費助成

《助成額》購入費の半分(限度額1万6000円)《対象》平成27年1月1日に市内に住居登録があり、6歳未満の幼児が2人以上いる方《講習会》11月29日、14時30分～16時。厚木小学校。印鑑と上履きをお持ちください。☎電話またはファクス、Eメールに〒住所、氏名、電話番号、参加する子どもの氏名、年齢、人数を書き、11月25日までにくらし交通安全課☎225-2760・FAX 221-0260・e-mail=3400@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

人権擁護委員1名を委嘱

依知南地区の片倉祐司さんが10月1日、法務大臣から人権擁護委員の委嘱を受けました。悩み事や近所のもめ事などの相談に応じます。《人権相談日》毎月第1～4水曜(祝祭日は除く)、13時～16時《場所》本庁舎1階総合相談コーナー。☎市民協働推進課☎225-2215。

ひとり親家庭など医療費助成現況届

助成を受けている方は、11月30日までに現況届を提出してください。届け出には健康保険証などが必要です(児童扶養手当の受給者は不要)。☎子ども家庭課☎225-2241。

宅建協会県央支部の無料相談会

11月21日、10時～16時。宅建協会県央支部(水引1-8-22)。弁護士・税理士・司法書士などの専門家による法律や税金、不動産取引などの相談(要予約)。無料。☎宅建協会県央支部☎224-6561。

秋の火災予防運動

11月9日から15日まで「無防備な心に火災が かくれんぼ」をスローガンに秋の火災予防運動を展開します。期間中は、消防署、消防団が消防車による巡回や立ち入り検査などを実施します。なお、サイレン吹鳴試験が11月9日7時から実施されます。火災とお間違いないようご注意ください。☎予防課☎223-9371。



《パブリックコメント》

企業等の立地促進等に関する条例等の一部改正

《閲覧期間》11月1日～12月1日《閲覧場所》産業振興課、市政情報コーナー、公民館、本厚木・愛甲石田駅連絡所、総合福祉センター、中央図書館、あつぎ市民交流プラザ、市ホームページ《応募資格》市内在住在勤在学の方、市内で活動する個人・法人・団体《応募方法》閲覧場所にある用紙を備え付けの「わたしの提案」箱に投函するか、直接または郵送、ファクス、Eメールで〒243-8511産業振興課☎225-2831・FAX 223-7875・e-mail=3900@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

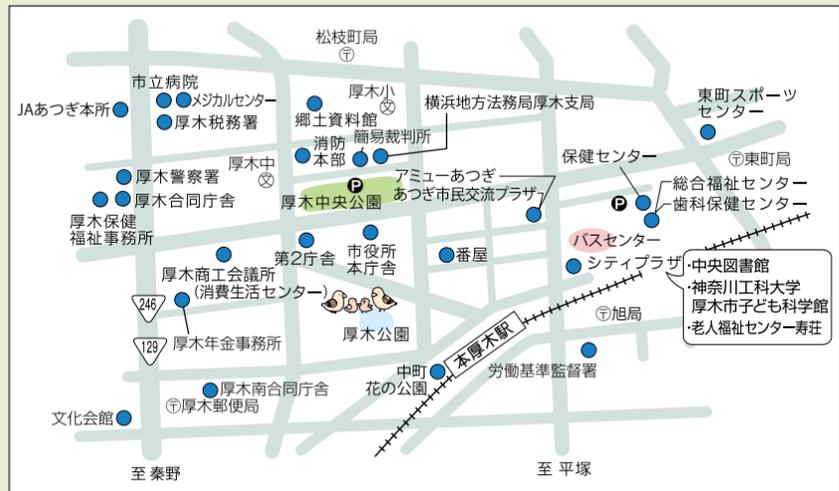
あつぎ健康相談ダイヤル24 さわやか1番 よいこころ 0120-31-4156

Atsugi Image Projection Award
最先端のメディアアート「プロジェクションマッピング」の映像コンテストを開催。審査員と観覧者の審査・投票で賞を決定します。
《日時》11月6～8日 14時～21時(8日は20時まで)
《会場》アミューあつぎ
《賞》最優秀賞、優秀賞、オーディエンス賞
※得票数1位の作品に投票した方の中から抽選で3人に、電子書籍、音楽プレイヤーをプレゼント。
☎企画政策課☎225-2450 G1

インターネットモニターからの意見を紹介
ホットメール Hot E Mail
10月1日号「広報あつぎ」を読んで
◆これを機に公民館図書室を利用しようと思った/70代以上男性・鳶尾◆剪定枝の回収は少ない量でも無料だと知り電話しようと思った/40代女性・森の里◆放置自転車を減らすために相当な取り組みをしていたことが分かった/50代女性・岡田◆あゆコロちゃんの歩みを見られて良かった/30代女性・林◆あゆコロちゃん特集が子どもとの会話につながった/40代男性・愛名◆ビッグレスキューで、どのような課題があったのかをもっと知りたかった/60代男性・中町
厚木市 インターネットモニター結果 検索

編集後記
特集で取材した「里山ネット・あつぎ」の稲刈りに他市から参加していたご家族が「こんなに気持ちの良い自然や景色は近所はない」と喜んでいました。私たちに当たり前になっている風景かもしれないですが、その尊さは決してお金には換えられません。里地里山の存続が少なからず危ぶまれる今、郷土の美しい自然を守れるのは私たちだけではないでしょうか。「自宅でも稲を育ててみたい」と1本の稲を大事に持って帰ったご家族の笑顔に、厚木の自然を誇りに感じると共に、それを守っていく責任を強く感じました。(山崎)

タウンガイド



11月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

マイタウンクラブ
 ①印の番号で、ウェブ上から詳しい情報をご覧いただけます。「①印」と記されたものは、申し込みもできます。
www.mytownclub.com

Gポイント
 ②印は、あゆこちゃんGENKIポイント「Gポイント」の対象事業です。数字分のポイントが付与されます。

市制60周年記念事業

七沢で自然と遊ぼう！「ふれあいデー」

11月15日、10時～15時。七沢自然ふれあいセンター（七沢2440）。丸太切り、せんみ唄絵付け、野菜・豚汁の無料配布など。一部実費負担。④当日直接会場へ。⑤七沢自然ふれあいセンター ☎248-3500。⑥1

あつぎ青春劇場

①11月21日、15時～16時。唄う！青春劇場カラオケ大会（ゲスト・宮川たかし）。②11月28日、11時～12時30分。あつぎ青春劇場落語会（出演・古今亭始）。

いずれも会場はアミューあつぎ9階。定員100人。500円。④当日直接会場へ。先着順。⑤商業にぎわい課 ☎225-2840。⑥1

第1回健康マージャン団体戦大会

11月21日、9時30分～16時30分。東町スポーツセンター。市内または隣接地在住でアマチュアの方40組（4人1チーム）。3200円（賞品、保険料など）。④ハガキにチーム

名、住所、氏名、年齢、電話番号を書き、11月16日（必着）までに〒243-0037毛利台1-1-1宮澤へ。先着順。⑤熊谷 ☎090-6703-8826。

市民ふれあいマーケット

11月15日、9時～13時30分（雨天中止）。厚木中央公園。日用雑貨や衣料品などを130店舗が販売。⑤環境政策課 ☎225-2749。⑥1

第16回マジックフェスティバル

11月8日、12時30分～。文化会館。マジックショー。定員350人。無料。④当日直接会場へ。先着順。⑤県央マジック連盟・井上 ☎285-0352。

からだいきいき運動教室

①Aコース＝12月14日～平成28年3月14日の月曜。9時10分～10時50分。あつぎ市民交流プラザ②Bコース＝12月9日～平成28年3月9日の水曜。10時～11時50分。ほうさいの丘公園（温水783-1）③Cコース＝12月8日～平成28年3月8日の火曜。10時～11時50分。荻野運動公園（中荻野1500）④Dコー

ス＝12月14日～平成28年3月14日の月曜。11時～12時40分。あつぎ市民交流プラザ。

いずれも全12回（年末年始を除く）。対象は市内在住で65歳以上の方30人（要介護認定者を除く）。無料。④直接、電話またはハガキ、ファクスに教室・コース名、〒住所、氏名、生年月日、電話番号を書き、11月13日（必着）までに〒243-8511健康長寿課 ☎225-2388・☎221-1640へ。抽選。①④152437 ②152439③152440④152438 ⑥1

脳とからだのいきいき運動教室

12月11日～平成28年3月11日の毎週金曜（12月25日、1月1日を除く）、13時30分～15時30分。厚木YMCA（中町4-16-19）。認知症予防プログラムを取り入れた運動。市内在住で65歳以上の方25人（要介護認定者を除く）。無料。④直接、電話またはハガキ、ファクスに教室名、〒住所、氏名、生年月日、電話番号を書き、11月13日（必着）までに〒243-8511健康長寿課 ☎225-2388・☎221-1640へ。抽選。①④152441 ⑥1

アクア転倒骨折予防教室

12月3日～平成28年3月10日の木曜（12月24・31日、1月7日を除く全12回）、10時～12時。総合福祉センター。市内在住で65歳以上の方20人（要介護認定者を除く）。無料。④直接、電話またはハガキ、ファクスに教室名、〒住所、氏名、生年月日、電話番号を書き、11月13日（必着）までに〒243-8511健康長寿課 ☎225-2388・☎221-1640へ。抽選。①④152442 ⑥

スキー教室

1月8～11日（3泊4日）。蔵王温泉スキー場（山形県）。基礎技術の講習。市内在住に勤の方70人（児童・生徒を除く）。4万円。①④152423

いずれも申し込みは、ハガキ、ファクスに教室名、〒住所、氏名（ふりがな）、年齢、性別、電話番号を書き、11月15日（必着）までに〒243-0039温水西1-27-1市体育協会 ☎247-7212・☎248-7151へ。抽選。

「忙しいあなた！」にも出来る料理教室

12月12日、10時～13時。あつぎ市民交流プラザ。冷蔵庫の食材や旬の食材を使った簡単で栄養のある料理を学ぶ。市内在住に勤在学の方20人。500円（材料費）。託児あり（要予約・1歳～小学3年生）。④直接、電話またはハガキに〒住所、氏名、電話番号、託児の有無を書き、11月30日（必着）までに〒243-8511市民協働推進課 ☎225-2215へ。抽選。①④152337 ⑥5

リボンでつくるオーナメント教室

12月1日、19時～21時。あつぎ市民交流プラザ。スチロールボールとリボンで飾りを作る。市内在住に勤在学の方10人。2800円（材料費）。④電話またはファクスに講座名、〒住所、氏名、年齢、電話・ファクス番号を書き、11月15日までに勤労者福祉サービスセンター ☎206-4151・☎206-4611へ。抽選。①④600262

お口の健康講座「いつまでもおいしく食べたい」

12月3日＝14時～15時30分。歯や口の健康に関する医師の講義。12月7日＝10時～11時30分。食事と飲み込みに関する管理栄養士の講義。いずれも会場はあつぎ市民交流プラザ。市内在住で65歳以上の方30人（要介護認定者を除く）。無料。④直接、電話またはハガキ、ファクスに教室名、〒住所、氏名、生年月日、電話番号を書き、11月25日（必着）までに〒243-8511健康長寿課 ☎225-2388・☎221-1640へ。抽選。①④152443 ⑥5

応急手当普及員再講習会

11月28日、9時～12時。陸合分署（三田1475-1）。有効期限更新や技能の維持・向上のための講習会。応急手当普及員で有効期限3年以内の

街の話題 路上喫煙ゼロのまちを目指して

本厚木駅前キャンペーンを実施

10月6日の夕方、本厚木駅前「路上喫煙禁止・ポイ捨て防止キャンペーン」が実施されました。環境保全指導員連絡協議会のメンバーなど31人が参加し、家路につく社員などに協力を呼び掛けました。

同会の大島秀夫会長（88・幸町）は「長年活動を続けてきたため駅前での路上喫煙は減ったが、少し離れるとまだまだ見受けられる。今後は活動の範囲を広げていきたい」と話していました。

キャンペーンは毎月開催し、啓発用のチラシの配布やたばこの吸い殻などのごみ拾いを行っています。路上喫煙は、ごみのポイ捨てにつながるだけでなく、周りの人や子どもがやけどをする可能性があり、大変危険です。

市では平成22年に、本厚木駅と愛甲石田駅周辺を禁止区域に定めています。マナーを守り、安全で美しいまちをつくりましょう。



帰宅する社員などの多い夕方に実施した

秋田県横手市との友好都市締結30周年を記念

第13回 厚木市郷土芸能まつり

古くから伝承される郷土芸能の祭典です。ぜひご来場ください。

■相模人形芝居特別公演

《日時》11月15日、13時30分～16時30分
 《出演》郷土芸能学校受講生、あつぎひがし座、相模人形芝居長谷座・林座

会場 文化会館

■郷土芸能発表会

《日時》11月29日、13時30分～17時
 《出演》相模里神楽垣澤社中、棚沢太鼓保存会、愛甲ささら踊り盆唄保存会、西仲はやし連、法雲寺酒井双盤講、厚木市古式消防保存会、長谷座ささら踊り盆唄保存会
 《特別出演》保呂羽山の霜月神楽保存会



横手市の霜月神楽

いずれも定員は330人。無料。④当日直接会場へ。先着順。

④文化財保護課 ☎225-2509 ⑥1

市制60周年記念事業

にぎわい爆発! 2015

あつぎ国際大道芸

11月7日(土)・8日(日)
本厚木駅周辺 11時~18時
(夜会:厚木公園 17時~18時)

国内外の有名パフォーマーが厚木に勢ぞろい。本厚木駅周辺が巨大な劇場に変わります。同時開催のイベントもお見逃しなく。驚きと興奮の2日間をお楽しみください。
問商業にぎわい課 ☎225-2840



あつぎ国際大道芸
企画プロデューサー
橋本隆雄さん (72)

ことしも、皆さんに存分に楽しんでいただけるパフォーマンスがめじろ押しです。大道芸は、小さい子からお年寄りまで全ての世代で、笑いや驚きを共有できる貴重なエンターテインメント。ぜひ会場にお越しいただき、皆さんで大道芸の魅力を感じてください。

同時開催イベント

- ★まち元気物産フェア
10時30分~16時30分 厚木中央公園
- ★あつぎグルメフェア
10時30分~18時 厚木公園
- ★スーパーキッズランド
10時30分~16時 サンパーク
- ★第34回あつぎ技能祭
10時30分~16時 厚木中央公園
- ★厚木商工会議所女性会バザー&バナナのたたき売り
10時30分~16時 厚木中央公園
- ★南口ホコ天まつり(7日のみ)
10時~15時 本厚木駅南口
- ★第6回あつぎ消防団ふれあい広場(8日のみ)
10時30分~16時 市役所西側駐車場



公式ガイドブック
書店・コンビニで
販売中。100円。

厚木商工会議所女性会バザー & バナナのたたき売り

中央公園

第34回あつぎ技能祭

第6回あつぎ消防団ふれあい広場(8日のみ)

物産エリア

まち元気物産フェア

★大道芸演技ポイント

●インフォメーション

★フェースペイント

●あゆコロちゃんグッズ販売場所

●似顔絵コーナー

飲食エリア

あつぎグルメフェア

キッズエリア

スーパーキッズランド

詳しくは
あつぎ国際大道芸 検索

「広報あつぎ」では、自主財源確保のため広告掲載事業を実施しています。広告掲載の申し込みは(株)相鉄エージェンシー ☎045-450-1804へ。